

# 大分市立大分西中学校 令和元年度 学力向上プラン 8月

	学力状況について	学習状況について
児童・生徒の状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年、全国(3年)や県(2年)、市(1年)の学力調査では、各教科とも平均正答率を上回る。</li> <li>基礎学力が高い生徒が多い。その一方で基礎学力を身につけられていない生徒もいる。</li> <li>ノーチャイムによる、主体的学習行動が生徒に意識化されている。</li> </ul> <p>◎令和元年度の国語の調査結果では、課題であった「感じたことや考えたことを書く」設問で正答率 100%になり、「伝国」における無回答率も 1.6%になる等、これまでの取組の成果が現れてきた。今後も引き続き「条件や根拠をもとに自分の考えを書く」ことに取り組んでいく。</p> <p>◎数学の調査結果でも昨年度課題であった「数と式」において+13.6ポイントと、数学的な言語活動に力を入れた成果が現れている。しかし、「図形」と「関数」等の複合問題においては、数学的な用語を用いて論理的に説明することに課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に集中して取り組むことができている。</li> <li>難易度の高い問題にも粘り強く頑張る生徒が多い。</li> <li>基本的な生活習慣の確立ができており、授業態度の良さが学習面に好影響を及ぼしている。</li> <li>ノーチャイムによる主体的な行動も確立している。</li> <li>作文課題に苦手意識を持っている生徒の課題の未提出が見られていたため、補充学習等で最後まで取り組ませてきた結果、抵抗感がなくなっている。</li> <li>話し合い活動をより活性化した活動にするために、4人班での「議論の進め方カード」を用いた話し合いの仕方を身につけさせている。</li> </ul> <p>※班(公の場面)を意識した話し方を身につけさせ、目的を明確にすることで、より話し合いが深まるように工夫する必要がある。</p> <p>※思考ツール(教育用パソコンの機能等も含めて)を積極的に活用する中で思考の深まりを目指す必要がある。</p>
指導の状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職による毎日の授業観察、助言を行っている。</li> <li>UDの視点を取り入れた、全員に分かりやすい授業を研究、実践している。</li> <li>生徒指導の三機能を生かした授業を行うことにより、生徒自らが主体的に課題と向き合う学習を促進している。</li> <li>ペアやグループ活動は定着してきたので、さらに必要感のある課題を設定し見通しをもたせること等により、生徒が主体的に学べるような授業改善に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業2分前着席、1分前黙想、授業態度向上、忘れ物なし等に学習指導部・生徒会・学習委員が中心となり取り組むことができている。「西中学習態度向上プロジェクト」</li> <li>教師の率先垂範として、1分前入室が継続されている。</li> <li>「毎日ノート」など家庭学習が習慣化するように点検を行った結果、90%以上は提出できている。</li> <li>「毎日ノート」や各種課題の学習内容も個別指導を継続している。</li> <li>補充学習については、放課後等の時間を捻出し、「ステップアップルーム」「寺子屋」等を行う体制づくりを整えた。その中で、「分からないことを質問する」習慣が身に付いてきている。</li> </ul>
今後目指す児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査 全教科全国平均値+11ポ達成(+11ポ達成)</li> <li>県学力定着状況調査 全教科全国平均値+11ポ達成(+14ポ達成)</li> <li>市標準学力検査 全教科全国平均値+7ポ達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値は昨年度の当該学年平均値を鑑みて設定している。</li> <li>授業の課題に対して自分の考えを持ち、仲間と共感的な人間関係を結びつつ、積極的に解決に取り組み発言することにより、自己存在感を抱ける生徒を目指している。</li> <li>自分の考えを伝えるとともに、友だちの考えを理解しようと努め、集団で学力向上を図る生徒を目指している。</li> </ul>
今後の具体的な取組	<p>1. 授業改善の取り組み(目標改善に向けた、教員全員での取組)</p> <p>①授業研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1時間完結型の「めあて」と「振り返り」または「課題」と「まとめ」のある授業、体験的で課題解決的な展開の授業。(生徒指導の三機能)</li> <li>板書の構造化(マグネットを使用し工夫、色を分けた板書)とノート整理の指導。</li> <li>習熟の程度に応じたきめ細かな指導。(机間指導、昼休みや放課後等の個に応じた課題と支援)</li> </ul> <p>②学習指導の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教科・領域を通じての、「情報を整理し」「根拠を明確にしながら」「論理的に考えを進め」「教科の用語を用いて」説明する・表現することの大切さや楽しさを味わわせるような場の工夫。(4人班での話し合い活動の全ての教科等で実践)</li> <li>複合問題での情報の整理、量の多い資料の読み取りや情報の取り出し、日常生活に結び付けての思考等に重点を置きながらの指導。</li> <li>英語科でのパフォーマンステストの実施。(これまで以上にスピーキングテストに重点を置く)</li> <li>意欲を高めるICTを活用した授業の工夫。・「フォローアップシート」「学習探検ナビ」を活用した計画的な家庭学習の工夫。</li> <li>長期休業を中心にした補充学習の実施及び、定期考査前後の「ステップアップルーム」(全学年)「やり直し教室」(2年)、昼休みや放課後の「寺子屋」(1年)や月・火・木・金の「放課後講座」(3年)。</li> </ul> <p>2. 個別指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年の二者面談(6,9,2月)の実施により、学習上の悩みやつまずきの把握と助言・学習方法の提示。</li> <li>3年生の三者面談(7,12月)による到達目標の設定や、具体的な取組の検討と助言。</li> </ul> <p>3. 各学年の学力向上に係る、2学期以降の具体的な方策(指導の重点)</p> <p>○1年生:①生徒指導の三機能を意識し、学習方法の習得を図る指導を行う。</p> <p>②「西中タイム」で読む・書く力を付けるために朝読書や200字作文に取り組ませる。</p> <p>③授業規律を守り落ち着いた雰囲気での学習に取り組めるための指導を行うとともに、生徒による「学習態度向上プロジェクト」の充実を図る。</p> <p>④ペアトークや小グループでの話し合い活動を導入する。</p> <p>⑤「毎日ノート」を用いた家庭での自主学習と、その点検を通しての質的向上を図る指導を行う。</p> <p>○2年生:①学習に意欲的に取り組む姿勢を培うために、生徒指導の三機能を意識した授業を実施する。</p> <p>②考える力とコミュニケーション力を高めるために、ペアトークや小グループ活動を取り入れた授業を実施する。</p> <p>③基礎学力と書く力をつけるために、「西中タイム」で授業の復習プリントに取り組ませ補充学習により最後まで仕上げを行う。</p> <p>④計画的な家庭学習の定着を図るために、毎日ノートの学習内容を提示する。</p> <p>⑤学習規律確立のために、「学習態度向上プロジェクト」に生徒自ら取り組み、クラスの学習態度向上を図る。</p> <p>○3年生:①生徒指導の三機能を意識した授業等で、ペア学習やグループ学習を活用し学び合い学習を進める。</p> <p>②家庭学習の「新研究」と朝自習の「サポート」の取組を徹底させる。</p> <p>③学習習慣が身につけていない生徒、意欲の低い生徒への個別指導を計画的に行う。</p> <p>④授業や宿題の中で、応用問題や発展的な課題に取り組みさせ、活用力をつけさせる。</p> <p>⑤学習規律確立である2分前着席や授業前後の挨拶を、生徒会の「学習態度向上プロジェクト」活動とタイアップし、自治的に行うことで意識を高める。</p>	
家庭・地域との協働	<p>1. 「毎日ノートの内容を家庭で点検する。また、声かけを頻繁にする。」よう家庭へ依頼し連携を強化する。</p> <p>2. テスト前にはTV、携帯、パソコンの時間制限するよう、学校通信・学年通信・学級通信等で周知する。</p> <p>3. 家庭との連携、保護者とのコミュニケーションを学校の重点取組として推進する。</p>	